

北海道地区高校生 介護技術コンテスト 最優秀賞

3年生の山田亜希さんと吉田桃花さん全国大会へ

全国福祉高等学校長会が主催した第1回北海道地区高校生介護技術コンテストが8月23日、江別市で開催され、置戸高校3年の山田亜希さんと吉田桃花さんが最優秀賞を受賞し、11月5日から6日にかけて石川県金沢市で開催される第26回全国産業教育フェア石川大会のさんフェア石川2016「第5回全国高校生介護技術コンテスト」に北海道代表として出場します。

北海道地区のコンテストには福祉科をもつ十勝の私立江陵、函館の同函館大妻、上川の町立剣淵、道立の置戸の道内4校から5チーム14人が出場。これまでは書類選考で道代表を決めていましたが、今年から生徒の刺激になり、介護の質の向上につながるようと他の都府県同様に実技審査が行われ、山田さんと吉田さんのチームが出場しました。

コンテストの課題は脳梗塞のため左上下肢麻痺の80歳女性をお茶会に参加していただくため、ベットから車いすに移りテーブルまで移動する介助を7分間で行い、お年寄りとのコミュニケーションやプライバシーへの配慮、自立支援、介護者同士の連携と役割分担ができたかなどが審査されました。

山田さんと吉田さんのチームは女性がお茶会の準備で湯飲みにお茶を入れると、「きれいな色のお茶ですね。〇〇さんが入れるお茶はおいしそうに見えますね」と自然体で声をかけ、設定されていた女性の経歴を参考にした意欲を引き出す声かけを行ないました。介助の際も足を十分に開いて疲労の少ない介助に心がけるなど高い評価を受けました。



全道コンテストの様子を再現



最優秀賞を受賞した山田亜希さん(右)と吉田桃花さん

山田さんと吉田さんは夏休み中に実習があったため十分な練習が出来ませんでした。 「実習先での利用者の方とのコミュニケーションを生かし、先生のアドバイスを参考に女性の意欲の引き出せるように心がけました」 「審査員から2人がどう動くか伝えるのが伝えて女性が安心できる。楽しい雰囲気と意欲を引き出す声かけが良かったと講評いただきました」と笑みがこぼれていました。

稲童丸教諭は「考えてきたことが結果につながり、人間としても成長している。全国大会も今まで学んできたものを発揮して良い経験になれば」とエールを送りました。

全国大会では本番直前に課題が提示されますが、山田さんは「課題に対応し良い介護をしていい結果がついてきたらと思います。ベストを尽くします」そして、吉田さんは「他の学校の良い介護を取り入れ、感謝の気持ちを持って北海道代表として恥じない介護をしてきたい」と張り切っています。